

## 第2回 枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する意見聴取会における主な意見一覧

No.	分野	委員によるご意見
1	総合戦略（素案）全般	<p>（今井委員） 総合戦略（素案）16ページについて、転入人口の拡大を冒頭に記載すると、他市から人口を奪うように見えるので良くない。地域間の人の取り合いというのは、はたから見ると、自分のまちだけよければいいように見えるが、北大阪の中心として、魅力あるまちにしていくことが枚方市の狙いかと思う。</p> <p>また、人口減少の課題は、根本原因を突き止めた上で取り組む必要がある。短期間での改善が難しいのであれば、補助的な対策として、当面の人口減少が予想される中で、魅力的なまちづくりのために重要な要素を見極めて、その要素を持続可能とするような体制を支援することが大事かと思うが、枚方市に住んでいる方が魅力と感じている部分は維持しなければならないと思う。</p> <p>（新川委員） 国の第2期総合戦略において、人口の奪い合いというよりは、地域間の協力や協調の方が強く指摘されるのではないかと想定される中、市の総合戦略の記載内容をもう少し工夫するべきである。具体的には、定住や定着の促進、それから出生数の増加という方向性を強調した方がよい。</p>
2	総合戦略（素案）全般	<p>（今井委員） 産業や文化の伝承では、例えばお祭りで参加者が30人いないと出来ない場合に、その人数を下回ったら文化が終わってしまうわけで、児童や学生との連携を図るアプローチを積極的に試みるべきである。結婚であれば出会いの機会の提供ということになるが、どうマッチングさせるのか、企業のマッチングなのか、行政が入る方がスムーズにいくのか、あるいはその逆か。連携のアプローチを複数試みて、分野ごとに効果的な手法を確立できたらいいと思う。</p>
3	総合戦略（素案）全般	<p>（今井委員） 市でアンケートを実施しているかと思うが、小中学生以下と仕事を退職してからの年代に関しては、保健センターなどで健康診断を実施するなど市が把握できる機会があるとしても、その間の年代、つまり今後の社会を担っていく人たちの意見を聞く手段を市として持つべきである。</p>
4	総合戦略（素案）全般	<p>（谷本委員） 市外から見た枚方市のイメージと、市民の持っているイメージと、行政やその関係者が目指したいイメージと、これらの方向性を一致させるためのビジョンを持つべきである。</p> <p>総合戦略の中で、イメージしやすいように大きな方向性を示し、共通認識として持つことができれば、非常に良いと思う。</p> <p>（今井委員） 枚方市の目指す将来像について、イメージ図を作成した方がよいのではないか。市はこのように考えているというものを、整理して伝えるよう工夫すれば、誰が見ても一目で分かると思う。</p>
5	総合戦略（素案）全般	<p>（谷本委員） 大学生が卒業した後も住みたい、あるいは一旦転出しても戻ってくるというところにアピールできるような視点も入れていけば、将来の若者の定住に繋がると思う。</p>

6	総合戦略（素案）全般	<p>（小西委員） 若い子どもの世代の価値観からすれば、大学を卒業したら外に出て行くというのは理に適っていると思う。確かに独身ならば、職場の近くや、少しでも自分の時間を長くとれる場所に住みたがるだろう。ところが、結婚して所帯を持ったら、どこで結婚生活を送り、子育てするかを考えるようになり、その段階で住む場所を変えることになる。会社との距離や交通アクセスだけでなく、住む環境として自分が受け入れられるエリアを検討した結果、枚方市を選び帰ってくるという循環が、少しずつ表れていると感じる。</p>
7	総合戦略（素案）全般	<p>（松元委員） 次代を担ってもらうため、子どもたちを市としてどう育てていくかを大きな視点として持つべきだと思う。現状の施策目標は、自分で住む場所を選べる年代の人達に対してアピールしているものだが、住む場所を選べない年代の子ども達に、枚方に住み続けたい、もしくは帰ってきたいと思ってもらえるような取り組みを進めることが、出生率が向上するまでの間、持続可能なまちをつくっていくための一つの代替案ではないかと考える。 若い人も大事だが、今教育を受けている子どもたちの思いについても把握する必要がある。時間はかかるかもしれないが、子どもたちに定住意向を示してもらえるかが大事だと思う。</p>
8	総合戦略（素案）全般	<p>（新川委員） 小さい頃から枚方に愛着を持ってもらうことで、いったん転出したとしても、家族を連れて帰ってくるという循環をいかに実現するかがポイントである。</p>
9	総合戦略（素案）全般	<p>（高木委員） 子育て世代が住む場所を決定するにあたって、治安の良さを測るため、市の防犯対策を着眼点としてみている方が多い。スクールゾーンへの防犯カメラ設置や、学校内でのスマートフォン連携による見守り隊の対策などを盛り込むことで、住みよい安全なまちというアピールができると思う。 また、ここ数年、台風など様々な災害が各地で多発している中で、住んでいて安心できるまちという意味では、市の防災に対する取り組みを、子育て世代の人は見ていると思う。枚方市としても様々な取り組みをしていると思うが、ライフラインを担う企業と連携し、防災に強いまちという観点も踏まえて、総合戦略の中に取り入れるのも一つのアピールポイントになると思う。</p> <p>（新川委員） 防犯、防災の視点で、国の地方創生では、安心、安全、防犯、防災が大きな柱立になっているが、枚方市の総合戦略においては、基本目標には取り入れていない。改めて検討した上、まちの魅力の中に入れていくことも可能であるし、別立てにした方が今の時代にあっているのかもしれない。検討いただければと思う。</p>
10	総合戦略の推進	<p>（今井委員） シティプロモーション、Society5.0、SDGsについて、様々な外部の関係者等と連携しながら進めていただきたい。</p>
11	総合戦略の推進	<p>（松元委員） 枚方市も協働の取り組みを進めていると思うが、部署によってはスムーズにいかないことがあり、SDGsという視点を取り入れていくのであれば、協働のルールをしっかりと作っていくべきだと思う。</p>
12	総合戦略の推進	<p>（新川委員） Society5.0、SDGsという観点を、基本目標の中でどのように活かしていくのかについて、もう少し見える化した方がよい。協働やSDGsといった観点は全ての施策に関わってくるので、うまく取り込んでいただきたい。</p>

13	基本目標1：安心して子どもを産み育てることができ、子どもの健やかな成長と学びを支える	<p>(小西委員)</p> <p>若い時に保育関係の仕事に従事していた方で、子育てが落ち着き、もう一度働く意欲のある方を教育機関で再教育して、復帰していただくという取り組みを、市でも実施されているかと思うが不十分である。当方としても、リタイアされた方に地域のため活躍していただくという制度を運用しており、一つの方策として、受け入れ側の支援も考えていただければ、住みよいまち、子育てしやすいまちに繋がるのではないかと思う。</p>
14	基本目標1：安心して子どもを産み育てることができ、子どもの健やかな成長と学びを支える	<p>(今井委員)</p> <p>子どもの教育が大事だと思うが、具体的な取り組みとして総合戦略(素案)の22ページに記載されている、授業でのタブレット導入について、同時に、例えばICTの有効活用に向けた教師の育成も必要かと思う。また、枚方市民ではない教員もおられることから、例えば産業など特定の分野のプロフェッショナルが来て、ワークショップにより枚方市の魅力を先生に教えて、さらに先生が子どもたちに教えてという、魅力を伝えていくアプローチができればと思う。</p>
15	基本目標2：市民の健康増進や地域医療の充実を図る	<p>(山本委員)</p> <p>高齢者の方が生きがいをもっていきいきと活躍できるという視点で、福祉や医療だけでなく、産業活性化とも連動させて、例えばサロン活動を地域の中で完結する産業として見出すということも、可能性としてあると思う。また、コンビニや中小企業を引継ぐためのノウハウを持っている高齢者もおり、地域の中で完結できるまちづくりを活性化させていくことも必要だと思う。</p> <p>施策ごとに独自に動いているケースは数多くあるが、それらが連携して取り組むというケースはあまりないので、市が把握して強く発信できればもっといいものになると思うし、稼ぐことで地域が活性化し、それが魅力となって人が集まってくるというのも一つのまちづくりだと思う。</p> <p>学生の活力を生かしたまちづくりの中に、地域内で完結できるまちづくりという視点も加えて、新たな施策に取り組めばよいのではないか。</p>
16	基本目標2：市民の健康増進や地域医療の充実を図る	<p>(山本委員)</p> <p>枚方市は、対人口では少ないかもしれないが、医療機関が充実しているのは確かである。枚方市内には、枚方療育園という重症心身障害児施設があるものの、重症小児、障害児として認定されない子どもが数多くいて、レスパイトなどの通常の医療を受けることも少ないのが現状である。そこで、枚方の充実した資源を生かし、重症小児もみていくし、親のレスパイトにも対応するという精神的な安心の部分を強調できるような視点を入れてもよいかと思う。</p> <p>基本的に保健所が重症小児のケアをすることになっており、例えば地域医療と大病院との連携によって、その子たちが見てもらえるような環境づくり、また親のレスパイトにも対応した取り組みを、一つのチームになって発信できれば、全国的なモデルにもなると思う。</p>
17	基本目標2：市民の健康増進や地域医療の充実を図る	<p>(小西委員)</p> <p>国土交通省の近畿地方整備局と意見交換した中で、中古住宅の流通に力を入れているとおっしゃっていた。住宅地の中の空き家や空き地をさらに活用しなければ、都市のスポンジ化が進み、まちの魅力が低下してくる。新たなエリアでの住宅開発は整備にコストがかかることもあり、今後は、今ある資源を活用するという視点で、既にインフラが整っているエリアに存在する空き家の再生などの取り組みを進め、移住したいと思える魅力ある地域にして、選ばれるまちにしていく必要がある。</p>

18	基本目標3：産業の活性化と人々の交流・賑わいの創出によりまちの魅力を高める	<p>(原田委員)</p> <p>産業の面で、市内の個人事業者の代替わりや事業承継など、今の産業を若い世代に引き継いでいく視点について記載するべきである。</p> <p>例えば、子どもたちが小さい頃から通っていたお店が廃業する際に、ある程度の年齢に達したその子どもたちが手を挙げるができる仕組みを構築すれば、商店街も次の世代に引き継がれていくと思う。就職説明会では、参加者も事業者も集まらない中、子どもの頃からの延長で仕事も引き継がれていくという、地域での人のつながりによる事業承継があってもよいのではないか。また、枚方の中学生、高校生が引き継いだ時に、同級生たちが一緒になって事業をするという展開になれば、市外への転出を防げるし、枚方の産業もなくなるらない。さらに新たな雇用も生まれるという好循環が地域に生まれるのではないか。</p>
19	基本目標3：産業の活性化と人々の交流・賑わいの創出によりまちの魅力を高める	<p>(原田委員)</p> <p>このお店を何年後に継ぐという具体的なイメージを中高生の時に持つことができると、子どもにとって身近な目標となる。また事業者としても、この子達が継いでくれると思うと、廃業を踏みとどまることができ、産業も持続していく。学校教育の中で、一般的な職業紹介ではなくて、人のつながりで入っていくような、一歩踏み込んだ取り組みがあってもよいのではないか。</p>
20	基本目標3：産業の活性化と人々の交流・賑わいの創出によりまちの魅力を高める	<p>(松元委員)</p> <p>総合戦略(素案)27ページの施策目標「地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち」について、「学生の活力を生かした」という部分が唐突ではないかと思う。他のところではまちづくりの担い手の話は一切出ていないが、ここで「学生のまちづくりの参加を図る」という表現が使われており、地域の活力、いわゆる経済的な面に対してかと思いきや、教育など様々な分野で活躍してほしいという主旨で記載されているので、この文言が出てくる理由がよく分からないと感じた。</p>